

医動物・種類同定検査のまとめ

—平成 22 年 4～6 月分—

医動物担当では、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成 22 年 4 月から 6 月の種類同定検査件数は、5 件 7 検体でした。依頼された 7 検体の内訳は昆虫類 3 検体、ダニ類 1 検体、その他 3 検体でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
1 階屋根裏で土のようなものを発見した。	 茶褐色、約 30×40mm	①イエシロアリ (シロアリ目)の 蟻道 ②ハチ目の ^{さなぎから} 蛹殻 (マユ)	①土の中に、木材成分とイエシロアリ職蟻 ^{たさい} の大腮(上顎)と兵蟻の大腮が認められた。  職蟻の大腮(上顎)  兵蟻の大腮(上顎)
	 蛹殻、乳白色、約 7mm		イエシロアリの虫体はみられなかった。イエシロアリは、特別に加工した大きな巣を建築物内、あるいは地下に造り、蟻道を通じて加害場所に連絡する。 ②ハチ目は完全変態で、卵→幼虫→蛹→成虫と変態する。蛹化時にマユを作り、成虫となる際マユを破って、出てくる。
保育園の園庭に一晚でアリの巣口周囲に盛土があるものが多数できた。	 働き蟻、黒色、約 6mm	クロヤマアリの働きアリ (ハチ目ヤマアリ亜科)	体長約 4.5～6mm。体は黒褐色。低地や山地の明るい場所に普通にみられる。地中に営巣し、地上に直接巣口を開ける。日本に広く分布する。
→前日の降雨によって巣内に流れこんだ土砂を一晚で排出したものと推測された。	 働き蟻、黒褐色、約 3.5mm	トビイロケアリの働きアリ (ハチ目ヤマアリ亜科)	体長約 2.3～3.5mm。体は黒褐色。平野部の草地から林内に最も普通に見られる。土中、朽木の中に営巣する。日本に広く分布する。
天井の隙間から虫がでてくる。	 有翅虫、黒褐色、約 4mm	ヤマトシロアリの有翅虫 (シロアリ目)	有翅虫の体長は約 4.5～7mm。特別、塊状の巣は作らず、食害箇所が巣となる。乾燥に弱く、常に湿った木材など多湿な場所を好む。有翅虫の群飛は、4 月～5 月頃にみられる。日本に広く分布する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
竹トりに行った後、虫体が体に付着していたことに気がついた。		タカサゴキアラ マダニ (クモ網ダニ目)	大型種。成虫は大・中型哺乳類に寄生する。ヒトの寄生例はかなり多く、寄生部位は特に下半身に多い。関東の温暖地から西南日本に多く分布する。
成体、灰褐色、約 6.5mm (飽血)			
玄関と家の中で、粉状のつぶつぶを発見した。		アメリカカンザイシロアリ (シロアリ目) の糞	本種は巣や蟻道は作らず、木材に孔道をあけて生息していて、コロニーは小さい。乾燥に強く、乾いた砂粒状の糞を出す。有翅虫の群飛は、7~9月頃にみられる。
砂粒状、褐色、約 0.8mm			
虫が夜間明かりに集まり、翌朝大量の死がい床におちている。		ユスリカ亜科の一種 (ハエ目)	幼虫は側溝や泥のたまった水溜り、河川、湖沼などから発生する。成虫は、日没時に群飛して、灯りのある方向に向かって、多数飛来することがある。
成虫、茶褐色、約 1~1.5mm			

この羽アリは アリ? シロアリ? 違いアリ?

Point 1

体のくびれ

- アリ類は、胸部と腹部の間がくびれ、突起(腹柄節)がある。
- シロアリ目はくびれがない。

Point 2

翅の形態

- アリ類の翅は膜状で、前翅に比べ後翅は明らかに小さい。
- シロアリ目は大きさがほぼ同じ。

Point 3

触角の形態

- アリ類の触角はこん棒状。
- シロアリ目はじゅず状。




●こん棒状



○じゅず状

●アリ(膜翅目)




前翅

後翅

くびれと腹柄節

翅が膜状
膜翅目

○シロアリ(等翅目)



前翅

後翅

くびれなし

翅が同じ大きさ
等翅目

ところで羽アリって何? アリの羽アリはアリのメスとオスです。羽アリの出現する時期は種類によって一定しており、4月頃から10月頃まで続きます。また、種類によって飛び立つ時期も様々です。おびただしい数の羽アリが結婚飛行のため巣を飛び出し、空中で交尾します。オスはすぐに死んでしまいますが、メスは翅を落とし、土の中などで女王アリとして数年間卵を産み続けます。